小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 22

2017 年 6 月 13 日（火）発行

発行責任者：草野篤子（白梅学園大学）

TEL: 042－346－5639

住所：〒187-8570

東京都小平市小川町1－830

「地域社会の輪の中で一学び育ち合うということ－」

近藤幹生（白梅学園大学子ども学科）

一人の子が社会に誕生する。約１年数ヶ月の頃に歩行、ことばを発する。誕生時の表情はもちろんだが、人間として、二足歩行する姿に出会うときや、意味のあることば（初語）を獲得する様子などに、心うたれるものがある。人間の誕生には、無数のドラマがあり、地域の中で育っていく。この命の重さは、はかり知れない。しかし、生命が軽んじられる出来事が頻繁に報じられる日々でもある。子どもや大人の貧困、教育現場におけるいじめや差別、子育て世代の育児への不安感や待機児童問題、高齢者の介護現場の厳しさなど、挙げればきりがない。いったい、なぜ生じるのかと、考えて込むことも、しばしばである。諸問題の原因究明と可能な諸制度の改善は急ぐべきだろう。

では、一人ひとりが努力できることはないのか、と問うてみた。それは、自分自身の人間観（保育観）や学びの狭さに直面するということでもあった。長い間、乳幼児のことばや保育のあり方を研究してきたつもりなのだが、まったくことばを発することができない子どもと向き合う親、教育現場の教師の考え方に教えられたことである。元日本聾話学校校長の安積力也先生は、次のように述べている。

「日本聾話学校のお母さんやお父さんにとって、この道は、どんなにか人知れぬ涙の谷を行く道でしょうか。ふつうの子どもだったら１歳になると自然に出てくる『初語』（最初の言葉）が、２歳になっても出てこない、３歳になっても出てこない、いや６歳の学齢期になってすら出てこないお子さんだっているのです。でも、なおも、なおも信じて待ちつづける。そのとき、いつか必ず、その子固有の『時』が充ちて、言葉が出てくるのです」（『教育の力』（安積力也、岩波ブックレット、37 頁）。関係性のなかで、「待つ」ことによってしか育たないもの、これが「人間の言葉」だという。

「人間への尊厳」が言われるが、狭い経験と不勉強を省みて自身のあり方を問い直すことで、人間についての新しい学びや発見がある。身近な地域において、人と人とが学び育ち合う大事さを、あらためてかみしめている。

小平西地区ネットワークって何？
2012 年 3 月 17 日に白梅学園大学関係者が様々なＮＰＯ、ボランテイア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

小平西地区地域ネットワーク
第２６回５周年記念懇談会

（開会あいさつを行っている草野先生）

3月11日（土）白梅学園大学にて小平西地区地域ネットワーク（以下「西ネット」）の第26回懇談会が開催されました。「顔の見える居場所づくりー小平西地区の今までとこれからー」と題して、この5年間に西ネットの地域で広がってきたコミュニティサロンの代表者に集まってもらい、シンポジウム形式で行いました。

はじめに自己紹介と居場所の紹介ということで4人の方々が報告しました。伊藤さん（うちカッフェえん）は保育ママさんをやっていたころから子育ての支援をやってみたいと思っていたので、自宅を改造してカフェをつくり、週4日開いています。柳田さんは高齢者、独居老人の交流の場として開いているカフェに西ネットとしても参加し、「西の風」と名付けて交流を行っています。石川さんは白梅学園大学のすぐ裏にかつて民生児童委員をやっておられた方の家を借りてはじめた「きよか」について報告しました。「きよか」は2015年にはじまり、2年が経過しています。渡辺さんは2013年にはじめた「さつき」が4年が経過し、地域にも定着してきている様子を報告してくれました。最後に吉村さんが、小川公民館で毎週行っている中学生（一部小学生）を対象として行っている勉強会「わかったかい」について報告しました。「わかったかい」は2013年にスタートして3年が経過し、150回を越えて実施しています。

成果については、まずカフェをスタートして多くのボランティアに支えられていることー多くの出会いが会ったこと、参加している方々が居場所として居心地良く参加していること、その中で認知症等に改善がみられるケースもあり、毎日でも開催してほしいという要望もあること、参加者がボランティアとして活動してくれるようになったこと等たくさんありました。

課題については、とにかくボランティアスタッフが足りないこと、希望が多くて毎日でも開催してほしいという要望があるが対応しきれないこと、公的な援助があればいいがそれを受けると記録や報告など逆に自由に開催することがやりにくくなることーもっと自由な援助であってほしいこと等々、たくさん出されています。

会場からの質問では、お金やボランティアの集め方、どうやったら市内全体に広げられるのか、サロンでのつながりをどのように地域に広げて行くのか等、出されています。最後に白梅学園大学の森山さんから、居場所としてのサロンが地域に少なからぬ役割をはたしていること、大学が始めた取り組みが地域のものになってきていること、顔の見える範囲での地域づくりが望まれていること、そして学生も含めてボランティアに参加しようとする人々がたくさんおり、そうした人々をもっと「巻き込む」ことが重要であることが確認されました。（文責：瀧口）

「4月あそぼうかいの笑顔」

白梅学園大学　松野七海（子ども学科2年）

4 月 22 日土曜日、白梅学園大学内にて、『4月あそぼうかい』を開催しました。当日はあいにくの雨ではありましたが、多くの方々に足を運んでいただき、たくさんの笑顔が見られ、無事に終えることが出来ました。

あそぼうかいとは、老若男女問わず、障がいのある方もない方も、参加されたすべての方々にとって楽しんでいただけることをめざして白梅子育て広場が開催しています。

今回のあそぼうかいでは、『紙のせかい』をテーマに、ホール全体を使った『制作・あそびコーナー』、乳児を中心に参加者の方がホッと一息つけるような『ホッとスペース』、さらに全体の空間づくりをおこなう『受付コーナー』、企画の終盤にホール内で劇をおこなう『おわりのつどい』のコーナーを構成しました。

受付コーナーでは、二つの部屋をつなぐ通路に紙でけんけんぱを作り移動中も遊べる工夫や、名札は色を塗った紙皿を制作するなど、入り口に入ってからすぐに紙の世界が広がる空間づくりに努めました。

制作・あそびコーナーでは、工作に使う紙ではなく、より身近な段ボールやチラシ、新聞紙など様々な素材の紙を用意したトントン相撲の制作や、紙飛行機の的あてを行いました。手作りの土俵を囲んで世代を越えたトントン相撲の戦いが繰り広げられ、『どうやったら勝てるんだろう』『段ボールの方が強いよ！』などと話しながら自分が作ったお相撲さんに工夫している場面が見られました。また、参加された方がこれからもその日に使った紙を思い返していただけるよう、スタンプラリー形式で様々な種類の紙を集める図鑑も制作しました。

ホッとスペースでは、午睡・おむつ替え・授乳スペースといった乳児に必要なスペースのほかに、丸めた新聞紙を繋げて作った畳や、段ボールで作られたゆりかごを用意し、途中で紙芝居の読み聞かせをしたことで、ゆったりとした時間の流れる場所をつくりました。

また、おわりのつどいでは背景や衣類、小道具などを紙で作り、紙芝居の世界を覗いたように見える『おおきなかぶ』の劇を行いました。

今回の企画は、子どもたちにとって身近な素材でも今までにしたことのないあそびができたり、企画当日のあそびでのワクワクが企画後でも思い返されたりと、参加された方にとって身近なあそびの幅が広がることを願って立案しました。そのためには安心してあそぶことができ、誰もが使いやすい環境づくりが必要です。保育・教育・福祉を学ぶ学生が集まるからこそお互いの学びを出し合い、それぞれの企画に合った配慮や工夫をすることによって、これからも地域の方々にとって居心地がよく楽しい時間が過ごせる場所を目指し、活動を続けていきます。

（おわりのつどい：大きなカブを演じています）

子どもシネマスクールに触れて

白梅学園総務課　中村有喜

私と日本映画の撮影との係わりは、かれこれ20年を超える。なんて書き出しをするとまるで、映画界で仕事をしている様に誤解が生じます。誤解が無いように伝えるには、私の親戚、知人（大学の先輩）と映画や映像関係者がおり、その誘いで、古く？は松竹大船撮影所、日活調布撮影所いまや自宅から徒歩数分の緑山スタジオ等自由に出入りをし、手伝いというか真似事をしていた覚えがあります。

月並みなのかもしれませんが、映画の作り手側から見えた世界を映し出す映画としては、「映画の撮影所という処は、本当に奇妙で不思議な世界です～」の台詞で始まる『蒲田行進曲』（昭和57年）、『この胸のときめきを』（昭和60年）、『ラストシーン』（平成14年）などは、鼻の奥に撮影所の土間のにおいを思い出させてくれます。とはいえ後者二つの映画は、和泉聖治、中田秀夫と名監督の作品といえども、興行収入は芳しくはありませんでした。

当時、親戚も滝田洋二郎の組でアタリ・ハズレを順繰りに引き、彼は酒が廻る度、言っていました。「俺が映画やりだしてから、ず～っと斜陽産業。今が底、今が底と先輩は言っていたけど、ずっと底。お前は止めた方がいい。」なんて言いつつも、「映画は文化だよ。作り手と、客と作り上げるもの。文化だからウケないものもある。」そして今も封切り一週間打ち切りと日本アカデミー賞受賞作品と浮き沈みのなか映画を作り続けています。

そんな浮き沈みも含めて、というのはジョークとしても、一個人として撮影所時代の映画づくりを子どもたちに伝える取り組みをしている、NPO 法人日本映画映像文化振興センターの子どもシネマスクールのロケ撮影に本学園が協力できることについて、うれしく思いました。

この取り組みは「プロといっしょに映画をつくる」と、何となく説明を受けていましたが、正直、学芸会の延長程度と思っていたところ撮影を一見して、あれ？目の前にいるのは南原健朗じゃんと「驚いた」ということが第一印象でした。

私がエキストラとして撮影に加わった時間は、僅かな時間ではありましたが、本当は撮影所時代の怖い人たちなのでしょうが、坂下監督をはじめスタッフの方々が一人ひとりの個性を引き出すために冗談を言う等して、また南原さんも、子どもたちが演じやすいよう、子ども達がお互いに空気を作っていたことを覚えています。

ちょうど今、今回の成果作品『少年ムヒカ　道徳のものさし』の上映を見終わってきました。また誤解していたようです。「プロといっしょに映画をつくる」は、全ての過程の一つであり、映画づくりを通じて子どもたちは、人との係わり、共に一つのものを作り上げるまたは上がる喜びから、思いやる心や公共心等々と、これからの人生にかけがえのない経験を得たのではないでしょうか。

結びとなりますが、「子どもの育ちや子どもを取り巻く文化・社会状況に働きかける高い専門性を身につける教育を行う」白梅学園大学同短期大学にとっても貴重な経験であったと思います。これからも子どもたちを育み、経験を届ける NPO 法人日本映画映像文化振興センターの活動を応援したいと思います。

出来上がった映画「少年ムヒカ　道徳のものさし」（50分）は、日本映画映像文化振興センターが第13回子どもシネマスクール in 小平「プロと一緒に映画をつくる」として小平市を中心とした地域から子ども達を募集し、完成させたものです。白梅学園やその周辺で撮影を行い、学園関係者も映画に登場しています。

（撮影前の打ち合わせ）

二つのタイプの子どもたちに関わって

―「分かった会」の感想―

吉田　徹

昨年の５月頃、子供たちに勉強を教えるボランティアがあることを知り、塾の講師をしていた経験があることから、参加してみました。まず驚いたのは、子供たちが賑やかなこと。とくに、勉強しに来たのか、おしゃべりに来たのかわからない子もいて、戸惑いました。ただ、仕事の関係で２か月ばかりお休みした後、会の方針が変わったようで、ほとんどの子が静かに勉強するようになっていました。これはうれしい変化でした。

今の悩みは、積極的に質問してくれる子や、こちらの説明をきちんと聞いてくれる子と、自習中心なのか、質問どころか、何かわからないところはないのとのぞきこむと、ノートを隠すことさえする子がいることです。前者のタイプに対しては、こちらも熱が入り、うまく教えられて、「わかった」と目を輝かせてくれると、本当に報われたと感じます。（これが、わかった会の趣旨ではないかと考えます）。

一方で、後者のタイプに対しては、せっかく来てくれたのだから、何か教えたい、何か学んで帰ってほしいという思いが渦巻いてしまい、じりじりすることになります。それでも、家では机に向かうこともないのかも知れないと考えれば、勉強するだけましなのかもしれません。このように悩みはつきないし、毎週参加することもおぼつかないですが、できるだけ時間をやりくりして、少しでもお役立てるよう努めるつもりです。

吹奏楽フェスティバルに参加して

小澤由季（白梅高校３年）

今回の「吹奏楽フェスティバル」では、第一部“クラシック”、第二部“演劇部とのコラボレーション”、第三部“ポップス”という三部構成によるステージで演奏させて頂きました。一部では、白梅史上最も難易度の高い「モンタニャールの詩」という曲を、二部では、初の演劇部とのコラボレーションを行いました。休憩時間にはアンサンブルを盛り込む等、今年は「挑戦」という言葉があてはまるステージになったと思います。

吹奏楽は個人でできる音楽ではないので、部員全員がまとまり心を一つにして行動するということが、いつ何時も私たちの課題です。そして、演劇部やルネこだいらの担当者の方との打ち合わせ等、様々な人

たちと関わっていく上で、情報の伝達不足などがいくつかあったのが悔しい部分です。

当日は、これまでにない位の観客数で好評を沢山頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。小さいお客様からご高齢のお客様まで、大勢の方々にご来場頂き、どのステージも“感動した”“面白かった”と声が届いています。

今は、夏のコンクールに向けて、また次の白梅祭や定期演奏会にも目を向けて日々練習に励んでいます。新しく1年生25人が入部し、現在60名という今までにない部員数で、繊細かつ表現豊かに綺麗な音を出す白梅サウンドを目標としています。

これからも小平市の皆様に愛される白梅ブラスとして頑張りたいと思っていますので、応援どうぞよろしくお願い致します。（吹奏楽部　部長）

見て、きいて、明日につながる、わたしの居場所
～小平市内の居場所支援の現状について～

小平市社会福祉協議会
コミュニティソーシャルワーカー（ＣＳＷ）上原哲子

ここ数年、市内でさまざまな形の居場所が広がっています。その機運のきっかけは、西地区ネットワークにおいて、白梅学園大学のバックアップを受けながら、「ほっとスペースさつき」などが立上ったことです。現在では、多くの活動や、ネットワークが展開され、支援機関も、市や地域包括支援センターなど、幅広い連携先が広がっています。

社会福祉協議会では、従来から、一人暮らし高齢者が月１回程度交流する「ほのぼのひろば」を支援していることもあり、立上げや運営に関するご相談を受ける中で、居場所を運営する皆さんや、これから立ち上げてみたい方、そして相談支援機関にとって、「一堂に会して、情報交換や交流する場」の必要性を強く感じ、平成２８年度に連絡会を立上げ、今回二回目の開催となりました。

当日は、武蔵野大学の教授で、地域福祉を専門とされている熊田博喜先生をお招きして、「居場所の発想が広がるワーク」を行いました。「講演内容がわかりやすくよかった」「自由に発想することで、新しい発想が生まれる。形が見えてくる。参加してよかった」等、多くの反響が寄せられました。

今回、「こだいら居場所ガイドブック」を発行しました。これは、市内の居場所の情報や運営者同士がつながるきっかけづくりであり、運営に迷ったり悩んだりしたときの助けになる資料です。ぜひ、多くの方に届いて、それぞれの個性豊かな居場所が、長く続くような助けになることを願っています。

これからも、社会福祉協議会では、市内の支援機関と連携しながら、地域福祉の推進に取り組んでまいります。どうぞお気軽にご相談ください。

子育て広場第11回シンポジウム

樺沢朋恵（子ども学科４年）

昨年度末、白梅子育て広場では第11回目となるシンポジウムを開催しました。地域の方々と学生、入学の決まった高校生、総勢200名以上の方にご参加いただきました。お越し下さった方並びに、ご協力頂いた皆様、本当にありがとうございました。

そもそも、白梅子育て広場シンポジウムは、企画に参加・協力して頂いた地域の皆様やこれから入学する高校生の方へ一年間の活動報告をする第一部と、地域の方や専門家の先生を交え、子育て等に関することを議題にグループディスカッションやパネルディスカッションを行う第二部の二部構成で行っています。

私は今回、実行委員としてシンポジウム全体の運営、主に第二部を担当しました。今年度の第二部では学生の間で時代によって変化してきているあそび観についてやあそびは教えるものなのか？創り出すものなのでは？等の疑問から導き出された『あそびってなんだろう』というテーマでパネルディスカッションを行いました。地域を舞台に「あそび」と関わりの深い活動をされている三名の方と、日頃から白梅子育て広場に参加頂いている保護者の方にパネリストとして登壇してもらいました。昔遊び（ベーゴマ）・音楽・お話し・おもちゃ…という様々な視点からあそびについて考えました。

事前にパネリストの方の活動について教えて頂いたり、活動場でのあそびの風景を見学したりと、このシンポジウムでは準備から本番まで本当に沢山の刺激や学びがありました。

実際に限られた時間内で一人ひとりの意見を聞き出すことやそれを当日お越し下さった方に伝える事はとても難しかったです。しかし、大学生活の中でこの様な地域の方や専門家と意見交換をできる場や、実践を通して交渉や広報、会議について学ぶ機会に恵まれたことはとても幸せなことであると実感しています。この3年間で関わってきた地域の方には今回大変お世話になりました。依頼のメールを転送して頂いたり、パネルディスカッションの留意事項を教えて頂いたり、講評を引き受けてくださったりもしました。メールの文面を添削してくださった方や、お忙しい中会場に子連れで駆けつけてくださった方、本番の後に感想を送ってくださった方もいます。私はこの温かい小平地域で白梅子育て広場の活動を続けてきてよかったと思いました。また、今回のパネルディスカッションでは青梅市から赤羽まで小平近隣以外の地域を舞台に活躍されている方をお招きしました。

企画を進めるうえで他の地域には、様々なヒントが転がっていると感じました。お越し頂いた参加者一人ひとりの方に、「自分の地域はどうか」と考えたり、今までにない視点や気づきをもって帰って頂けていたら幸いです。

小平西地区小川西地域・栄町地域

（第一ブロック）ネットワーク懇談会

第一ブロック（小川西・栄町）では、この５年間の地域との繋がりの中で、初めて地域で生活している単位、あるいは働いている単位の代表に集まってもらって初めての懇談会を開催しました。以下そのまとめです。なお開会を前に、職能大において地震体験を行いました。新潟の中越地震、阪神大震災、そして東日本大震災がどのように揺れたのかをコンピューターのデータをもとに再現するものですが、その揺れの激しさに一同驚きました。

■日　時：平成 29 年 3 月 21 日（火）15 時～18 時
■場　所：職業能力開発総合大学校 1 号館 4 階中会議室
■出　席：瀧口（白梅学園短期大学）、井上（第一ブロック世話人）、伊藤（うちカフェえん）、内田（市民協働・男女参画推進課）、島田（小川西公民館）、村越（職能大学校）、窪寺さん（職能大学校）、小林（小川ホーム）、中野（小川ホーム）、永畑（小川ホーム）、鈴木（あすなろ）、向笠（あすなろ）、小山（レスキューファイブアカデミー）、西（西ネット世話人）、山路（都営団地自治会）、リー（小川町在住）、内田（障害者福祉センター）、矢板（障害者福祉センター）

１　開会の挨拶と自己紹介

○会場校の管理部長村越さんより挨拶があり、その後出席者が自己紹介をしました。

２　意見交換

○小川西町・栄町の現状はどうなっているのか、どういう方向が望まれるのか

・制度や仕組みがいろいろできることは良いことだが、細分化しすぎて全て機能しているわけではない。
　支援をしていく際に、細分化になればなるほど難しくなってくる。
・国が作った制度をいかに市民が中心になって利用するか、地域につなげていくことが大事になる。
・地域包括支援センターは市からの委託事業。仕事内容としては、高齢者の相談窓口や要支援者 1.2 の方のプランニング、権利擁護、虐待、居宅のケアマネージャーの後方支援、地域包括ケアシステム等を担っている。
・「我がこと　丸ごと　共生社会」という言葉があり、意味としては、他人事ではなく自分のことと思い、共に生きていく。
・地域の人と関わりを持っていく際に、どこまで手を差し伸べてよいのかわからない。

・認知症のためのカフェがある＝オレンジカフェ。
・事業対象者というのは、要支援 1.、2 には当てはまらない方の中で虚弱高齢者を対象としている
・夏休みや春休みに物作りを体験させてもらえると嬉しいと思っている母もいる。職業能力開発総合大学校では、学園祭の一部として 11 月に物作り体験を実施している。今年度は 300 名ほど来場された。
・新設された整育園の近くにギャラリーコーナーという場所がある。物々交換ができる場所となって

いる。管理している人がいるが、常時人がいるわけではない。
・地域の中に、憩いの場所がほしい。
・子育て広場に学生が関わることで子どもだけでなく、親も喜ばれている。職能大学校でも体験する場を増やす方向で検討している。地域に住んでいる元気な高齢者が子どもたちに教える場所があっても良い。
・人材作りのサポートを職能大学校にお願いしたい。
・白梅大学と朝鮮大学校とで子育て広場を行っている。
・一つのきっかけで、二次的三次的に繋がっていくとよい。
・アイデアを出し合うことが大切。
・顔見知りになることで、自然に挨拶が出来るようになる。大事なことは顔が見える関係を築いていくこと。（記録：矢板辰哉）

小平南西部地域コミュニティタクシーを考える会の１年

昨年５月小平市の南西部地域のコミュニティタクシーを考える会（以下「考える会」）がスタートして１年が経過しました。この間に市の担当である公共交通課による地域の要求などを求めたアンケートなどを実施し、その成果を踏まえてのルート作成が進んできています。

３月の考える会では、鷹の台駅を起点に東大和駅方面を巡回する２つのコース案が提示され、その案に沿ってどのような障がいがあるのか等が検証されています。現在の課題として、仮のコースとして停留所をどこに置くのか、道路の車両制限令をクリアしているか、所轄の警察署、および警視庁・公安委員会の了解が得られるか、そして実証実験運行をやって乗降客の数がクリアできるのか（１日７０人以上が利用する）等です。１日 70 人は朝から夕方まで 18 便程度を運行するとなると 1 回 4 人は目安になります。年間の運行経費は約 750 万円～850 万円ということで、その三分の一を運賃で賄うことになります。

なお南西部というのは、西武多摩湖線から西で青梅街道を含めてそれより南側に広がっています。国分寺線と多摩湖線の間も南西部となっていますので、そちらもコース対象ですが、今のところ検討できていません。これができると市役所や福祉会館等に行くことが可能となります。

小平市の組織　2017年4月1日より

部	課(担当)	長	担当業務	西ネット
1	議会事務局	槇口克巳		☆
2 企画政策部　（斉藤 豊）	政策課	安部幸一郎	市制の基本方針、総合計画、行政評価	☆
	秘書広報課	篠宮智巳	市長、副市長の秘書、表彰、市報の発行	☆
	情報政策課	橘田真	情報化推進、情報処理システムの企画・管理	
	行政経営課	阿部 裕	組織、定数、行政改革の推進、公共施設マネージメント	
財務担当（片桐英樹）	財政課	橋本隆寛	財政計画、予算の編成、執行管理	☆
	財産管理課	片桐英樹	公有財産の調整、公共用地の取得・処分	

3	総務部　（鳥越恵子）	総務課	後藤　仁	庁舎管理、文書管理、法務、情報公開、個人情報保護	☆
		契約検査課	阿部和幸	工事・物品・その他の契約・検査	
		検査担当	石川順一	工事・物品その他の検査	
		職員課	斉藤武史	職員の人事、研修、給与、福利厚生、健康管理	☆
		労務人事制度担当	黒山忠成	職員団体、人事給与制度	
	危機管理担当（河原順一）	危機管理課	金子一道	防災、災害対策、消防、国民保護	☆
		地域安全課		防犯	☆
4	市民部　（平尾達朗）	市民課	三井慎二郎	戸籍、住民基本台帳、印鑑登録、証明書発行、住民基本台帳カード、都営住宅、住居表示	☆
		税務課	深谷　達	市税の賦課、税関係証明書発行	
		収納課	**小松浩一**	市税などの収納・徴収、納税証明書発行	
		市民相談課	瀧澤文夫	市民相談、広聴、市政資料コーナー、消費生活、交通災害共済、消費生活相談室	☆
5	地域振興部　（瀧澤清児）	市民協働・男女参画推進課	宇野智則	市民協働の推進、市民活動団体への支援、男女平等の推進、自治会の支援、市民菜園の管理、地域センター	瀧口優 草野
	理事（遠藤毅） 文化スポーツ担当部長兼健康・保険担当部長　（武藤眞仁）	産業振興課	板谷扇一郎	農業振興、商工業振興、観光街づくり	☆
		文化スポーツ課	永田達也	文化・国際交流、文化・スポーツ施設の管理、文化財の調査・保護、平櫛田中美術館	☆
		スポーツ振興担当	**島田秀幸**	スポーツ・レクレーション振興	☆
6	こども家庭部（石川進司）	子育て支援課	小島淳生	子育て相談、子ども広場、子育てふれあい広場、児童館、児童に関する手当・医療費助成、学童クラブ、子ども家庭支援センター、ひとり親等の福祉資金貸付、ひとり親相談	市川 眞央 奈良
		家庭支援担当	伊藤祐子	家庭支援	☆
		保育課	市川裕之	市立・私立保育園、認定こども園、私立幼稚園、認証保育所、認定家庭福祉員	☆
		保育指導担当	武藤好子	子育て支援	眞央
7	健康福祉部　（柳瀬正明）	生活支援課	屋敷元信	福祉施策の企画・整備、福祉計画の推進、民生児童委員、社会福祉法人指導検査、生活保護、助産施設、住居確保給付金	奈良
		高齢者支援課	大平真一	介護保険事業計画、介護保険料の賦課・徴収、保険給付、要介護等認定、介護サービス計画、事業所指導、高齢者の相談・苦情相談、在宅介護相談、介護予防事業、在宅支援サービス、高齢者住宅、高齢クラブ	森山 山路 石川
		地域包括ケア推進担当	細谷毅	地域包括ケア、地域支援事業、高齢者施策の推進	森山
		障がい者支援課	原儀和	障がい福祉サービス、障害者手当、心身障害者医療費	瀧口 西方 井原
	保険担当　（武藤眞仁）	健康推進課	永井剛	健（検）診、予防接種、母子保健、健康推進事業、健康相談、難病等医療費の助成の申請受け付け	土川

		保険年金課	川上吉晴	国民健康保険、国民健康保険税の賦課、国民年金、後期高齢者医療制度	☆
		参事	島田義之		
8	環境部 (岡村秀哉)	環境政策課	佐藤恵美	環境施策の企画調整、地球温暖化対策、犬の登録、公害対策	☆
		資源循環課	白倉克彦	廃棄物の発生抑制・再利用・処理	
		水と緑と公園課	藤川晶雄	公園用水路の整備・維持管理、緑の保全	☆
		下水道課	田中博晶	下水道の計画・設計・工事管理・維持管理、ふれあい下水道館	
		参事	利光良平		
9	都市開発部　(津崎陽彦)	都市計画課	奈良　勝己	都市計画、宅地開発・地区計画・風致地区の指導	☆
		公共交通課	瀧澤徳一	コミュニティバス(にじバス)、コミュニティタクシー(ぶるべー号)	☆
		地域整備支援課	村田　潔	土地区画整理事業の支援、市街地再開発事業の支援	
	都市建設担当 (首藤博之)	道路課	清水克敏	市道の維持管理、認定、廃止	☆
		公共工事担当	菊田隆幸	土木工事の設計・工事管理、公共用地等の測量	
		都市計画道路担当	真子恭徳	都市計画道路の整備	☆
		交通対策課	和田明浩	交通安全対策、放置自転車対策、自転車駐車場の整備	☆
		施設設備課	後藤　信幸	市有建物の設計・工事監理・保全管理	
10	会計管理者　(小松耕輔)	会計課	小松耕輔	公金の出納、物品の管理	
11	教育部　(有川知樹)	教育総務課	余語　聰	教育委員会の会議、教育委員会職員の人事、教育施設の営繕・維持管理	☆
		学務課	坂本仲之	児童生徒の就学・転学、学校保健、小・中学校給食	牧野 市川
	教育指導担当	指導課	出町桜一郎 (派遣)	学習指導、生活指導、教職員の人事・研修・給与・福利厚生	増田
	出町桜一郎(派遣)	教育施策推進担当	小林邦子	教育相談室、あゆみ教室、帰国児童生徒教室、特別支援教育の企画・立案・調整・推進	市川
	地域学習担当 (松原悦子)	地域学習支援課	相澤良子	青少年健全育成、社会教育委員、学校支援ボランティアの推進、放課後子ども教室、子どもの権利条約推進	瀧口 吉村 奈良
		公民館	照井幸枝	学級・講座・講習会・講演会の開催	
		図書館	湯沢瑞彦	図書の閲覧・貸出、読書相談、地域資料の収集	
議会事務局		次長			
選挙管理委員会				選挙の執行管理、選挙啓発	
監査事務局 (水口篤)				財務事務などの監査・検査・審査	
農業委員会		産業振興課		農地利用の調整、農業経営生産等の調査・研究	
固定資産評価審査委員会		税務課		固定資産の評価に対する不服の審査	

＊下線部は今年度変更になったところです。

皆さん、コミュニティ・サロン（下の①～⑤）と「中学生勉強会」（④）に足を運んでみませんか？

お待ちしております！　（右の地図を参照）

①　ほっとスペースさつき

毎週火曜と木曜　10:00~16:00

問合わせ：渡辺　穂積

TEL：042-344－7412

②　ほっとスペースきよか

毎週月曜　10:00～15:30

問合わせ：石川　貞子

TEL:090－7732－2089

③　アットホームはぎ

毎月 7,17,27 日：14:00～17:00

問合わせ：萩谷　洋子：042-342-1738

④　「分かった会」小中無料学習教室

毎週木曜日　18:00～20:30　（小川公民館）

問合わせ：奈良　勝行　（講師募集中！）

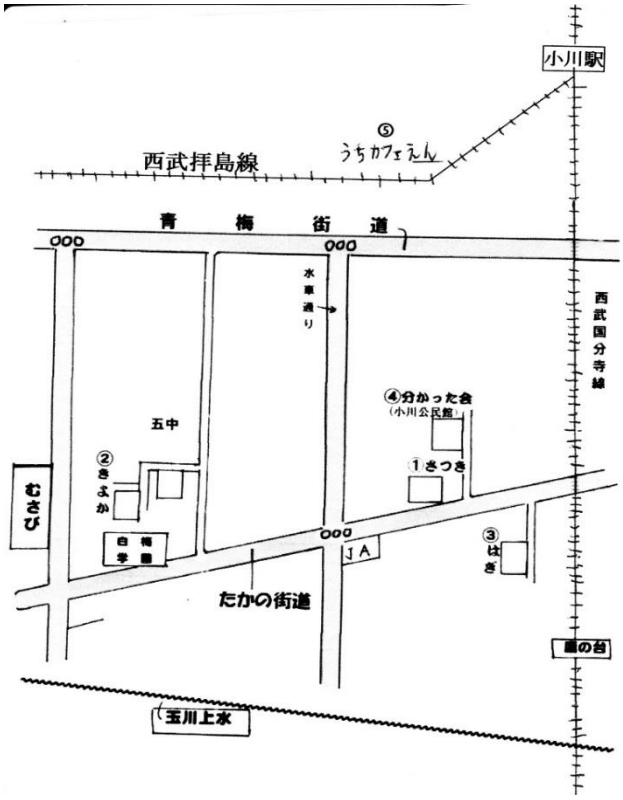
TEL:090-4435-4306

⑤　子育てサロン「うちカフェえん」（小川西町）

毎週月・水・木・土 10：00～15：30 分

問合わせ：伊藤絹代

TEL：090-5441－6219



西ネットの今後の予定

学内会議：6/20, 7/25, 9/5, 10/10, 12/5, 1/9, 1/30
世話人会：7/4, 9/12, 11/21, 2/6
懇談会　：10/3,　12/19、3/10

イベントの予定

7 月 18 日（火）第一ブロック世話人会（「えん」にて）

9 月 3 日（日）（障害者）センターまつり

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	学内世話人
1	西　克彦・丸山安三	瀧口　優・ 福丸由佳・山路憲夫
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・久保田進・穂積健児・　杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 瀧口眞央・西方規恵 牧野晶哲
4	桜田　誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・杉本豊和 森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

お願い：この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体（者）の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当（奈良まで）お申し出下さい。

投稿募集：このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください（奈良勝行）。

メール：ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp

編集後記：西ネットも６年目をむかえています。今号も地域の様々な取り組みを紹介することになりました。また年度初めということで小平市役所の各課の担当者を入れました。より身近に感じられるようになりたいですね。原稿を寄せて頂いた方々、ありがとうございました（瀧口）。